

荒野における聖餐式

肴 倉 宏

The Eucharist in the Wilderness

Hiroshi Sakanakura

抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。死から復活した Hard-Heart は、悪に対する勝利者であるだけでなく最後の審判のときの審判者でもある。復活した Hard-Heart は、Natty Bumppo を彼の死に至るまで霊的に支え続けるのである。Hard-Heart に支えられながら、Natty Bumppo と Middleton は、荒野に公正な社会を実現するために努力する。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、ハード・ハート

(1998年8月31日 受理)

Abstract

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Hard-Heart who rises from the dead is the victor over evil and the judge at the Last Judgment. Risen Hard-Heart spiritually supports Natty Bumppo until his death. With Hard-Heart's support Natty Bumppo and Middleton make efforts to realize a just society in the wilderness.

Key words : James Fenimore Cooper, *The Prairie*, Hard-Heart

(Received August 31, 1998)

James Fenimore Cooper は、*The Last of the Mohicans* (1826) を出版した次の年の1827年に *The Prairie* を出版している。*The Prairie* でも *The Last of the Mohicans* と同様にインディアンが描かれている。*The Last of the Mohicans* から *The Prairie* へと読み進んできた読者は、*The Prairie* に描かれている Hard-Heart が、*The Last of the Mohicans* の Uncas に類似していることに気がつくのである。批評家たちも Hard-Heart と Uncas の類似性を指摘している。たとえば、Robert Emmet Long は、次のように述べている。

A reading of *The Prairie* gives the impression that Cooper transferred the anti-theoretical distinction he had drawn between the Mohicans and the Iroquois to the Pawnees and the Sioux.⁽¹⁾

Long は、Mohicans 族と Pawnees 族が類似していると指摘している。そして彼は、Mohicans 族の Uncas も Pawnees 族の Hard-Heart もともに高貴なインディアンとして描かれているという。

しかし、光と闇から構成された舞台の中で *The Prairie* の Hard-Heart を捉え直してみるとどうなるであろうか。光と闇から構成された舞台の中で捉え直してみると、Hard-Heart は、極めて重要な象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品を構成する舞台は、重要な意味をもってくるように思えるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕日を描いた。このようにして、彼は、*The Prairie* の物語を光の枠組の中においているのである。しかし、この作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけでない。それは、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。Cooper は、夕日に示される光が象徴的な意味をもっていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true character. (14—15)⁽²⁾

Natty Bumppo は、小高い丘の上に立って燃えるように輝いている夕日を満身に浴びている。この場面にやってきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背後に自然現象を越えた宗教的な意味を読み取ったのであろうか、一瞬、“superstitious awe”(15)に打たれ立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して“the

light...surrounds the trapper with a halo of light, and, in effect, almost sanctifies him.”⁽³⁾と述べている。冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の34章でさらに強調されている。死を目前にしている Natty Bumppo が、Duncan Uncas Middleton や Pawnees 族の Hard-Heart 達に囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour—the calm beauty of the season—the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は、両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly”(385)と描かれているように、姿勢を正し大きな声で“Here!”(385)と答える。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的存在を象徴的に表しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第1章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組を作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられている。

The Prairie の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面が続いて、即ち、第1章の後半から第6章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様に作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Sioux 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts”(40)と描かれている Sioux 族は、Natty Bumppo に“the miscreants!”(37)や“the thieves”(38)と言われている。彼等は、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜陰に紛れて獲物を求めて徘徊する Sioux 族を“A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain”(37)と述べている。Sioux 族は、人間というより悪魔に似ているというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味が与えられているのである。

闇に与えられている象徴的な意味は、Sioux 族の族長 Mahtoree 通して、一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれている。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a spe-

cies of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめたうえでキャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を“he stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should first devote to fell purposes.”(53)と描いている。残忍な目的を遂げるための犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する象徴性を帯びているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組は、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このように Cooper が *The Prairie* の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り広げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深い関わりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表すものを信じるか、それとも闇の世界にとどまるかという倫理的な問題が、*The Prairie* の中心課題であることを暗示しているのである。

Hard-Heart が、光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する。彼は、物語のほぼ真ん中である第17章の終わりから舞台に現れる。Hard-Heart は、“a wise and a great people”(191)と Natty Bumppo に呼ばれている Pawnees 族の若い族長である。Cooper は、Hard-Heart を次のように描き読者に紹介する。

The Indian in question was in every particular a warrior of fine stature and admirable proportions. As he cast aside his masque composed of such party-coloured leaves, as he had hurriedly collected, his countenance appeared in all the gravity, the dignity and it may be added in the terror, of his profession. The outlines of his lineaments were strikingly noble, and nearly approaching to Roman, though the secondary features of his face were slightly marked with the well known traces of his Asiatic origin. (186)

Hard-Heart は、均整のとれた見事な身体つきをしている。表情は、厳粛で威厳に満ちている。顔立ちも、高貴な印象を与えている。このような Hard-Heart の特徴は、物語の中で何度も強調されている。たとえば、Hard-Heart を養子にしようと試みる Le Balafre は、Hard-Heart の“faultless form, unchanging eye, and lofty mien”(311)を見て満足する。Natty Bumppo は、しきりに“good looking and noble looking”(259)という言葉を用いて彼のことを述べている。Hard-Heart は、完全無欠で、威厳があり、そのうえ高貴な人物であることが強調されている。

完璧な Hard-Heart が舞台に登場した目的は、Sioux 族の Mahtoree と戦うためなのである。彼は、“It is good to be ready for the Sioux ; though he is not in sight, a bush may hide him.”(187) という。実際、彼は、Pawnees 族の援軍がくるまで、一人で敵対して

いる Sioux 族を追いかけ戦うのである。Sioux 族の Mahtoree は、悪の化身として描かれていた。Hard-Heart の目的は、悪の化身 Mahtoree と彼に率いられている悪の諸力を粉碎することなのである。Hard-Heart は、Mahtoree と対照的に神的な意味を与えられた光の側に属する人物なのである。

Natty Bumppo は、Pawnees 族の Hard-Heart を *The Last of the Mohicans* に登場した Uncas と比べている。彼は、最初、Hard-Heart 本人を前にしていると知らずに Hard-Heart について次の様にいう。

Ay, but he they speak of most, is a chief far beyond the renown of common warriors, and one that might have done credit to that once mighty but now fallen people the Delawares of the Hills. (191)

Natty Bumppo は、Hard-Heart を Delawares 族の一部族である Mohicans 族の族長に匹敵する人物であるという。彼は、Hard-Heart の正体を知ったあとなおに Hard-Heart と Uncas の類似性を強く意識する。Sioux 族に捕えられ死の危険に直面しながらも泰然としている Hard-Heart の様子を見て Natty Bumppo は次の様にいう。

There is something in these Loup, which opens my inmost heart to them. They seem to have the courage, ay, and the honesty, too, of the Delawares of the Hills. And this lad,—it is wonderful, it is very wonderful—but the age, and the eye, and the limbs are as if they might have been brothers! Tell me, Pawnee, have you ever, in your traditions heard of a Mighty People, who once lived on the shores of the Salt Lake, hard by the rising sun,— (277)

Natty Bumppo は、Hard-Heart の勇気であれ誠実さであれ Mohicans 族と類似しているという。そのうえ、彼は、Hard-Heart と Uncas の年齢や表情さらに格好がそっくりで、まるで兄弟なのではないかと思うのである。そして Natty Bumppo は、“some of his blood might be in your veins.”(278)とまで言う。彼は Uncas の血が Hard-Heart に流れているのではないかと思うのである。

Hard-Heart と Uncas の類似性の強調は、*The Prairie* の Hard-Heart に与えられている意味を考える上で極めて重要である。批評家たちは、Hard-Heart と Uncas の類似性を指摘していた。彼等は、Hard-Heart と Uncas がともに高貴なインディアンとして描かれているという。しかし、*The Last of the Mohicans* の Uncas は、高貴なインディアンとして描かれているのではなく、メシヤとして描かれているのである。⁽⁴⁾ Uncas のメシヤ性は、彼の死を通して示されている。Uncas の死に至る過程は、聖書に描かれたイエス・キリストの死に至る過程と重ね合わせて描かれている。メシヤ Uncas の死は、悪の呪縛から人間を解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させる象徴的な意味を与えられているのである。⁽⁵⁾ *The Prairie* の Hard-Heart は、Natty Bumppo にメシヤ Uncas と兄弟でないだろうかと言われている。Hard-Heart と Uncas の類似性の強調は、Hard-Heart が Uncas と同様にメシヤであることを暗示している。

Hard-Heart のメシヤ性は、第23章の大草原の火事の場面を通して描かれている。Sioux

族が、草原に隠れている **Natty Bumppo** たちを焼き殺そうとして草原に火を放つ。**Natty Bumppo** たちは、絶望的な状況に追い込まれるのである。しかし **Natty Bumppo** の機転の利いた判断によって絶体絶命の窮地を切り抜けることができる。そして、まだくすぶっている草原を横切ろうとしていると、彼等は“the mutilated carcass of a horse”(253)を見る。**Natty Bumppo** と一緒にいる **Duncan Uncas Middleton** は、焼け焦げた馬の死体を見て、“And this might have been our fate!...had the flames come upon us, in our sleep!”(253)という。彼は、草原に隠れていたら確実に焼け死んだだろうと考えるのである。**Natty Bumppo** や **Middleton** たちが馬の乗り手はどうしたのだろうかと思議に思っていると“the second carcass”(254)が見つかる。それは、良く見ると“the hide of a buffaloe”(255)なのである。その皮を持ち上げると皮の下から **Hard-Heart** が、現れるのだ。**Natty Bumppo** は、**Hard-Heart** の出現に関して次のように説明する。

Ay, ay, the secret is out!...The lad has been in the grass for a cover ; the fire has come upon him, in his sleep, and having lost his horse, he has been driven to save himself under that fresh hide of buffaloe. No bad invention when powder and flint were wanting to kindle a ring! I warrant me, now, this is a clever youth, and one that it would be safe to journey with ! (257)

Hard-Heart は、草原で眠っている間に火に取り囲まれたのだ。そして彼は、自分を救うため野牛の皮の下に隠れ火が通り過ぎるのを待ったのだと **Natty Bumppo** は説明する。こうして **Hard-Heart** は、死すべき運命を免れたのである。野牛の皮の下からの **Hard-Heart** の出現は、彼が死を克服して復活したことを象徴的に表しているのである。*The Last of the Mohicans* の **Uncas** のメシヤ性は、彼の死を通して描かれていた。**Uncas** と対照的に *The Prairie* の **Hard-Heart** のメシヤ性は、復活を通して示されているのである。**Hard-Heart** は、復活のメシヤなのである。

Hard-Heart のメシヤ性は、死の克服を通して示されているだけではない。彼のメシヤ性は、悪の化身 **Mahtoree** との戦いを通して具体的に示されている。第30章の **Hard-Heart** と **Mahtoree** の戦いに注目してみる。**Hard-Heart** と **Mahtoree** の戦いは、単に **Pawnees** 族と **Sioux** 族の族長同士の戦いを意味しているのではない。彼等の戦いは、象徴的な意味が与えられている。二人の戦いは、復活のメシヤ **Hard-Heart** と悪の化身 **Mahtoree** との霊的な戦いなのである。実際、**Cooper** は、**Mahtoree** を“The crafty Sioux”(332)と述べ彼のライバル **Hard-Heart** を“the noble and honest nature of his more youthful rival”(332)と描いている。**Hard-Heart** と **Mahtoree** は、河中島で一騎打ちの戦いをする。**Hard-Heart** の投げつけたナイフが、**Mahtoree** の胸に突き刺さる。**Mahtoree** は、“Boy of the Loups!...the scalp of a mighty Dahcotah shall never dry in Pawnee smoke!”(336)と言って河の中に身を投じるのである。**Hard-Heart** もすかさず河に飛び込んで勝利の印として **Mahtoree** の頭皮を取ろうとする。**Mahtoree** の頭皮を剥ぎ取って現れた **Hard-Heart** は、“the chief appeared...flourishing the scalp of the Great Sioux, as a banner that would lead to victory.”(337)と描写されている。復活のメシヤ **Hard-Heart** は、死だけでなく悪

に対しても完全に勝利したのである。

悪に対して勝利した Hard-Heart は、続く第31章で裁判に立ち会うのである。第31章で Ishmael Bush は、彼にとらわれている Duncan Uncas Middleton と Inez, Paul Hover と Ellen Wade そして Obed Battius や Natty Bumppo たちを裁こうとする。Ishmael Bush は、全員の前で自分の役割と裁判の手順について次の様にいう。

I am called upon, this day, to fill the office, which in the settlements you give unto judges who are set apart to decide on matters that arise between man and man. I have but little knowledge of the ways of the courts, though there is a rule that is known unto all, and which teaches that an 'eye must be returned for an eye' and 'a tooth for a tooth.' I am no troubler of County houses, and least of all do I like living on a plantation that the sheriff has surveyed, yet there is a reason in such a law that makes it a safe rule to journey by, and therefore it ar' a solemn fact, this day shall I abide by it, and give unto all and each, that which is his due and no more. (343)

Ishmael Bush は、裁判官の役割をするという。しかも彼は、出エジプト記21章やレビ記24章で述べられている「目には目を歯には歯を」という同質同量の復讐法にしたがって裁こうとする。批評家たちは、第31章の裁判の場面の重要さを指摘している。たとえば、John P. McWilliams, Jr は、次のように述べている。

It is Ishmael Bush, not Natty Bumppo, who restores social order at the end of *The Prairie*. Because Ishmael belongs to society, even in its lowest form, he can bring rudimentary forms of civil justice to the barbarous wilderness. ⁽⁶⁾

McWilliams は、Ishmael が荒野に正義をもたらしているのが重要なのだという。しかし、McWilliams も含めてほとんどの批評家たちは、Ishmael Bush の裁判に立ち会っている Hard-Heart の重要さに気がついていない。

復活のメシヤ Hard-Heart は、Ishmael Bush による裁判の成り行きを見ているのである。Cooper は、裁判に立ち会っている Hard-Heart を次のように描いている。

Hard-Heart, alone, of all his band, was present to witness the novel and far from unmimposing spectacle. He stood leaning gravely on his lance, while the smoking steed, that grazed nigh, showed that he had ridden far and hard to be a spectator, on the occasion. (342)

Hard-Heart は、裁判を目撃するために遠くから急いで来たのである。Hard-Heart の見ている前で Ishmael Bush は、彼の長男 Asa 殺しの犯人にされている Natty Bumppo を裁こうとする。Ishmael Bush は、Asa の身体に残っていた弾丸を Middleton に示しながら“with this morsel of lead did he lay low as fine a boy as ever gave joy to a parent's eyes!”(351)という。彼は、Natty Bumppo を Asa 殺しの張本人だという。Ishmael Bush に対して Natty Bumppo は、次のように弁明する。

I have lived long...and much evil have I seen in my day...For myself, I hope there is

no boasting in saying that though my hand has been needed in putting down wickedness and oppression, it has never struck a blow of which its owner will be ashamed to hear, at a reckoning that shall be far mightier than this. (351)

Natty Bumppo は、悪や抑圧をただす努力はしてきたが心に恥じる不正なことはしたことがないと主張する。彼は、Asa 殺しを否定するのだ。彼は、それを最後の審判のときでさえ主張できると断言する。Natty Bumppo の強い弁明を聞いていた Hard-Heart は、Natty Bumppo に次のように助言する。

If my father, has taken life from one of his tribe...let him give himself up to the friends of the dead, like a warrior. He is too just to need thongs to lead him to judgment. (351)

Hard-Heart は、Natty Bumppo に真実を明らかにするよう勧める。彼の勧めに応じて Natty Bumppo は、Hard-Heart の前で次の様にいう。

If by perpetrator you mean him who did the act, yonder stands the man, and a shame and a disgrace is it to our race that he is of the blood and family of the dead. (353)

Natty Bumppo は、Ishmael の義理の弟である Abiram White が真犯人であることを明らかにする。Natty Bumppo の述べた真実は、Abiram White の墮落した姿を浮かび上がらせるだけでなく、無実の Natty Bumppo を裁こうとした Ishmael Bush の裁判の不当さをも明らかにする。復活のメシヤ Hard-Heart の前で明らかにされたことは、Natty Bumppo の無実と Ishmael Bush 一家の倫理的腐敗ぶりなのである。Hard-Heart と同様に裁判の成り行きに関心をもっていた Middleton は、この結末に畏怖の念を抱いている。実際、Cooper は、“Middleton, awe-struck by what he believed a manifest judgment of Heaven”(353)と Middleton の様子を描いている。第31章に描かれている裁判の場面で重要な役割を果たしているのは、Ishmael Bush ではなく Hard-Heart なのである。第31章の裁判の場面は、復活のメシヤ Hard-Heart が臨んで行われる最後の審判を象徴的に描いたものと解釈できるのである。Hard-Heart は、悪を裁き神の正義を示す裁判官なのである。

Hard-Heart による審判の結果は、第32章から最終章の第34章までで具体的に示されている。第32章の場面は、夜の闇に支配されている。Cooper が描く闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味が与えられていたことはすでに述べた。Middleton の妻 Inez を誘拐し Asa を殺した Abiram White は、闇の中で神を罵りながら死んでいく。Cooper は、その様子を “The name of God was distinctly audible, but it was awfully and blasphemously blended with sounds that may not be repeated.”(363)と述べている。Abiram White の死は、神の救いから見放された悲惨で絶望的な死である。Abiram White を除いた Ishmael Bush 一家も闇の世界にとどまっている。彼等は、作品の冒頭と最終章で示されていた神的な意味を与えられた光の世界に歩み寄ることはないのである。審判者である Hard-Heart の前で真実を述べた Natty Bumppo の死は、第34章で描かれている。Natty Bumppo は、

満身に神的な意味を与えられた光りを受けている。そして彼は、光に象徴された神に堂々として“Here!”(385)と答えて死ぬ。彼の死は、明らかに **Abiram White** の死と対照されている。作品の冒頭の光の中に登場し最終章で光の中で死んでゆく **Natty Bumppo** は、光あがるうち光の中を歩み続けてきた人物である。最終章に描かれた **Natty Bumppo** の死は、神的な光に照らし出された栄光に満ちた死であるといえよう。復活のメシヤ **Hard-Heart** は、彼に従う者に栄光に満ちた終わりを約束し、反対に、邪悪な闇にとどまる者には絶望的な死をもたらすことを示している。

Hard-Heart のメシヤ性は、審判者の役割を通して示されているばかりではない。彼のメシヤ性は、野牛を食べる場面を通してさらに描かれている。第9章の野牛を食べる場面に注目して見ることにする。**Natty Bumppo** は、“a savoury bison’s hump”(96)の“The choice morsel”(96)を“the adjoining and less worthy parts of the beast”(96)からきりわけ **Paul Hover** に食べさせている。そして彼は、食欲旺盛な **Paul** に次のように忠告する。

cut more into the centre of the piece; there you will find the genuine riches of natur’; and that without need from spices, or any of your biting mustard to give it a foreign relish. (97)

Natty Bumppo は、野牛の中心部に自然の本当の豊かさが秘められているという。二人は、その部分を取り出して食べているのである。野牛を食べる場面は、荒野に生きる人々の日常のありふれた一コマを活写しているだけではない。野牛を食べることは、極めて重要な象徴的な意味を与えられているのである。その象徴性を明らかにするためには、今一度、**Hard-Heart** の復活の場面を思い起こしてみる必要がある。**Hard-Heart** は、草原で眠っている間に火に取り囲まれ、野牛の皮の下に隠れ火が通り過ぎるのを待った。こうして彼は、死を克服し復活を果たしたのである。野牛の皮の背後にいるのは、**Hard-Heart** 自身なのである。**Hard-Heart** の復活の場面を思い起こしてみると、野牛の肉を食べる行為は、滋養豊かな肉を食べることを表しているだけではない。それは“the genuine riches of natur”(97)を通して **Hard-Heart** 自身を食することなのである。野牛の肉を食べる行為は聖餐にあずかることを象徴的に表しているのである。第9章の野牛を食べる場面は、読者にキリスト教の聖餐式を連想させる。

復活のメシヤ **Hard-Heart** は、荒野で執り行われる聖餐にあずかる者を霊的に強めるのである。**Natty Bumppo** と **Paul Hover** の会話に耳を傾けてみる。**Paul** は、“If I had but a cup of metheglin...I should swear this was the strongest meal that was ever placed before the mouth of man!”(97)と言って滋養豊かな野牛の肉をむさぼるように食べる。食欲旺盛な **Paul** に対して **Natty Bumppo** は、次の様にいう。

Ay, ay, well you may call it strong! ...strong it is, and strong it makes him who eats it! Here, Hector...you have need of strength, my friend, in your old days as well as your master. Now, lad, there is a dog that has eaten and slept wiser and better, ay, and that of richer food, than any king of them all! and why? because he has used and not abused the gifts of his Maker. He was made a hound, and like a hound has

he feasted. Them did He create men ; but they have eaten like famished wolves! A good and prudent dog has Hector proved, and never have I found one of his breed false in nose or friendship. Do you know the difference between the cookery of the wilderness and that which is found in the settlements? No ; I see plainly you don't, by your appetite ; then I will tell you. The one follows man, the other natur'. One thinks he can add to the gifts of the Creator, while the other is humble enough to enjoy them ; therein lies the secret. (97)

Natty Bumppoは、野牛の肉を食べることは肉体だけでなく霊的にも強めてくれるという。しかも彼は、野牛の肉を食べることは創造者の与えた自然の恵をむさぼるのではなく謙虚に味わうことなのだという。死を目前にしている Natty Bumppo も犬の Hector もともに野牛の肉を食べることに象徴された聖餐にあずかることで Hard-Heart の霊的な支えを必要としているのである。Hard-Heart のメシヤ性は、恐ろしい悪の支配する闇の中で神的な光に従う者を死に至るまで霊的に励まし支え続けることなのである。

Allan M. Axelrad は、Cooper の歴史観について述べている。彼は、*The Prairie* の木のイメージを論じたあとで次のようにいう。

The overwhelming evidence found throughout his works shows that the cyclical idea of history articulated by Leatherstocking, through the language of organic analogy and metaphor, is shared by Cooper.⁽⁷⁾

Axelrad は、Cooper の歴史観を循環史観であるという。しかし、Cooper は、作品を構成する時間の枠組としてキリスト教の救済史の枠組を用いている。救済史の枠組の中で、*The Last of the Mohicans* では、待ち望まれていたメシヤ Uncas の出現から死に至るまでが描かれていた。*The Last of the Mohicans* の次作である *The Prairie* では、メシヤ Hard-Heart の死からの復活と最後の審判までが描かれている。こうしてみると、Cooper の歴史観は、循環史観ではない。Cooper の歴史観は天地創造から終末まで至るキリスト教的な線的な歴史観であると解釈すべきであろう。しかも、*The Prairie* では、メシヤ Hard-Heart は、彼の復活から最後の審判に至る終末までの中間時を生きなければならない人々を霊的に励まし支え続ける役割を果たしているのである。

Hard-Heart は、Natty Bumppo と Duncan Uncas Middleton を結び付ける絆になっている。Natty Bumppo と Paul が野牛を食べていると、そこに Duncan Uncas Middleton がやってくる。彼は、*The Last of the Mohicans* に登場した Duncan Heyward の孫なのである。Duncan Heyward は、Uncas をメシヤと理解できなかった。彼は、合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰の信奉者として描かれていた。⁽⁸⁾ しかし、Duncan の孫である Middleton は、祖父の合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰の枠組を脱却した信仰に支えられている。そのことは、彼の名前に示されている。彼の名前に付けられている Uncas は、彼が Uncas をメシヤとする信仰の持ち主であることを示している。Uncas のメシヤ性を受け入れている Middleton は、野牛の肉を食べることの象徴的な意味を理解しているのである。彼は、Paul に食べるようにすすめられると次のように答える。

I will however gladly profit by your invitation ; for I have fasted since the rising of yesterday's sun, and I know too well the merits of a bison's Hump, to reject the food. (109)

Middleton は、野牛の肉を食べることの価値を十分知っているのである。彼は、メシヤ Hard-Heart の霊的支えを必要としているのである。Natty Bumppo は、野牛を食べることの象徴的な意味を理解している Middleton に好意を示す。実際、彼は、Middleton の名前を聞くと“*How is the name! did you call him Uncas? Uncas! was it, Uncas?*”(111)という。Natty Bumppo は、Middleton が彼と同じ信仰の持ち主であることを確信するのである。Natty Bumppo は、*The Last of the Mohicans* の Uncas をメシヤとして認識していた。彼は、Uncas を通して彼の父 Chingachgook との和解を果たし救いを得たのである。⁽⁹⁾ このような Natty Bumppo は、野牛を食べることの象徴性を理解している。Natty Bumppo と Middleton は、復活のメシヤ Hard-Heart を核として親密な関係を結ぶのである。こうして荒野の真ただ中に共通の信仰に支えられた共同体が形成されているのである。

Hard-Heart を核とした共同体の特徴は、Natty Bumppo と Middleton の関係を通して具体的に示されている。Natty Bumppo は、正規の教育を受けたこともない。彼は、社会の底辺にいる一獵師に過ぎない。獲物をとってその日を暮らす彼は、明日に備える蓄えもない。彼は、教育的にも社会的にも経済的にも誇り得るものを何ひとつ持たない死期を間近にした獵師なのである。彼と対照的に Middleton は、若きエリートである。彼は、アメリカ合衆国 3 代大統領 Jefferson によって“*a Captain of artillery*”(111)に任命されたのである。しかも、彼は、ルイジアナ購入によってアメリカ合衆国に編入された地域に駐屯する部隊の司令官でもある。Natty Bumppo は、エリートである Middleton の前で卑屈になることもないし、Middleton は、地位や肩書きを誇ることもない。Natty Bumppo と Middleton は、兄弟愛で結ばれている。しかも、彼等は、社会正義の実現をも目指しているのである。Middleton が大草原にやって来たのは、Abiram White に誘拐され Ishmael Bush 一家に捕らわれている Inez を取り戻すためなのである。彼のこの目的を知った Natty Bumppo は、Middleton に協力する。彼等は、Inez を Ishmeal Bush 一家から解放するのである。復活のメシヤ Hard-Heart を核とした共同体の特徴は、兄弟愛と正義を特徴としている。

Natty Bumppo と Middleton の間に形成されている共同体は、Ishmael Bush 一家と対照されている。*The Prairie* の物語の前半部すなわち第 1 章から第 17 章までは、Ishmael Bush 一家と Natty Bumppo たちとの戦いを中心に物語が展開されている。Ishmael Bush 一家が大草原に来たのは、不法に土地を占拠していた彼等を追い立てようとした“*the sheriff's deputy*”(58)を射殺しお尋ね者になったからである。実際、Ishmael は、法に対して反感を示す。彼は、法について Natty Bumppo に次の様にいう。

I have come, old man, into these districts because I found the law sitting too tight upon me and am not over fond of neighbors who cant settle a dispute without trou-

bling a justice and twelve men. (61)

Ishmael は、法や正義を否定する。それらに代わって Ishmael Bush 一家を支配しているものは、家父長的権威主義である。父に反抗しようとした長男 Asa に Ishmael は、“Asa, you ar’ a man, as you have often boasted ; but, remember I am your Father, and your better.”(90)と 言 っ て 脅 す。Ishmael は、父 親 と し て の 威 圧 的 な 力 を ち ら つ か せ て 息 子 を 支 配 す る。こ れ に 対 し て Asa は、次 の よう に 不 満 を お ち ま け る。

I’ll stay no longer to be hectored like a child in petticoat. You talk of law, as if you knew of none ; and yet you keep me, down, as though I had not life and wants of my own. I’ll stay no longer to be treated like one of your meanest cattle ! (90)

Asa は、家畜同然の扱いしか受けていないと文句をいう。Asa の個人としての尊厳は、無視されているのである。Ishmael Bush 一家に具現されている共同体には、平等、兄弟愛、正義が欠落しているのである。

Ishmael Bush 一家と比べ、Natty Bumppo と Middleton の共同体には、愛と正義がある。Natty Bumppo と Middleton は、Hard-Heart を復活のメシヤとして仰いでいる。彼等は、Hard-Heart の存在を象徴的に示す聖餐にあずかり兄弟としての交わりをしている。そして彼等は、Inez を Ishmael Bush 一家から解放する。Hard-Heart を核にして形成される共同体は、兄弟愛に基づき正義の実現を目指す共同体なのである。Cooper が復活のメシヤ Hard-Heart を描いたのは、愛と正義の支配する社会の実現のためにはイエス・キリストへの信仰が不可欠であると言いたかったからであろう。

注

- (1) Robert Emmitt Long *James Fenimore Cooper* (New York : A Frederick Ungar Book, 1990) 64, James Grossman *James Fenimore Cooper* (Stanford : Stanford University Press, 1949) 48, Donald A. Ringe *James Fenimore Cooper* (New York : College and University Press, 1962) 46, Orm Överland *The making and meaning of an American classic James Fenimore Cooper’s The Prairie* (New York : Humanities Press, 1973) 154, Wayne Fields “Beyond Definition : A Reading of *The Prairie*,” *James Fenimore Cooper : A Collection of Critical Essays* (Englewood Cliffs : A Spectrum Book, 1979) 103, William P. Kelly *Plotting America’s Past : Fenimore Cooper and The Leatherstocking Tales* (Carbondale : Southern Illinois University Press, 1983) 106, Geoffrey Rans *Cooper’s Leather-Stocking Novels : A Secular Reading* (Chapel Hill : The University of North Carolina Press, 1991) 140
- (2) James Fenimore Cooper *The Prairie ; A Tale* (Albany : State University of New York Press, 1985) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、() ないの数字は、そのページを示す。
- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode : Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington : The University of Kentucky, 1971) 109
- (4) 拙論「時間の中心 Uncas——クーパーの描いたメシヤ像——」大阪女学院短期大学紀要第19号(1988) 87-103
- (5) 拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 77-87
- (6) John P. McWilliams, Jr. *Political Justice in a Republic ; James Fenimore Cooper’s America*

- (Berkeley : University of California Press, 1972) 268, James Grossman *James Fenimore Cooper* (Stanford : Stanford University Press, 1949) 58, Henry Nash Smith *Virgin Land : The American West as Symbol and Myth* (New York : Vintage Books, 1950) 258—259, Orm Överland *The Making and meaning of an American classic James Fenimore Cooper's The Prairie* (New York : Humanities Press, 1973) 166, Wayne Fields “Beyond Definition : A Reading of *The Prairie*,” *James Fenimore Cooper : A Collection of Critical Essays* (Englewood Cliffs : A Spectrum Book, 1979) 96, William P. Kelly *Plotting America's Past : Fenimore Cooper and The Leatherstocking Tales* (Carbondale : Southern Illinois University Press, 1983) 113—114, Warren Motley *The American Abraham : James Fenimore Cooper and the Frontier Patriarch* (Cambridge : Cambridge University Press, 1987) 122—125, Charles Hansford Adams “*The Guardian of The Law*” : *Authority and Identity in James Fenimore Cooper* (University Park ; The Pennsylvania University Press, 1990) 75—80
- (7) Allan M. Axelrad *History and Utopia : A Study of the World View of James Fenimore Cooper* (Norwood : Norwood Editions, 1978) 61
- (8) 拙論「Duncan Heyward の挫折」大阪女学院短期大学紀要第24・25号 (1995) 99—108
- (9) 拙論「Glenn's の彼等へ——Cooper の救い——」大阪女学院短期大学紀要第24・25号 (1995) 109—120